

第2章 荒川区の概要

1 位置・地勢

荒川区の総面積は 10.16km²で、広さは 23 区中 22 番目です。

荒川区は東西に長く、隅田川が区の北東部を迂回して流れ、南千住、荒川、町屋、東尾久、西尾久、東日暮里、西日暮里の各地域があります。

区内の大部分はほとんど起伏がなく平坦ですが、南西部には山手台地の一部があり、通称、諏訪台（すわだい）、道灌山（どうかんやま）と呼ばれる高台となっています。



図 2-1 荒川区全図

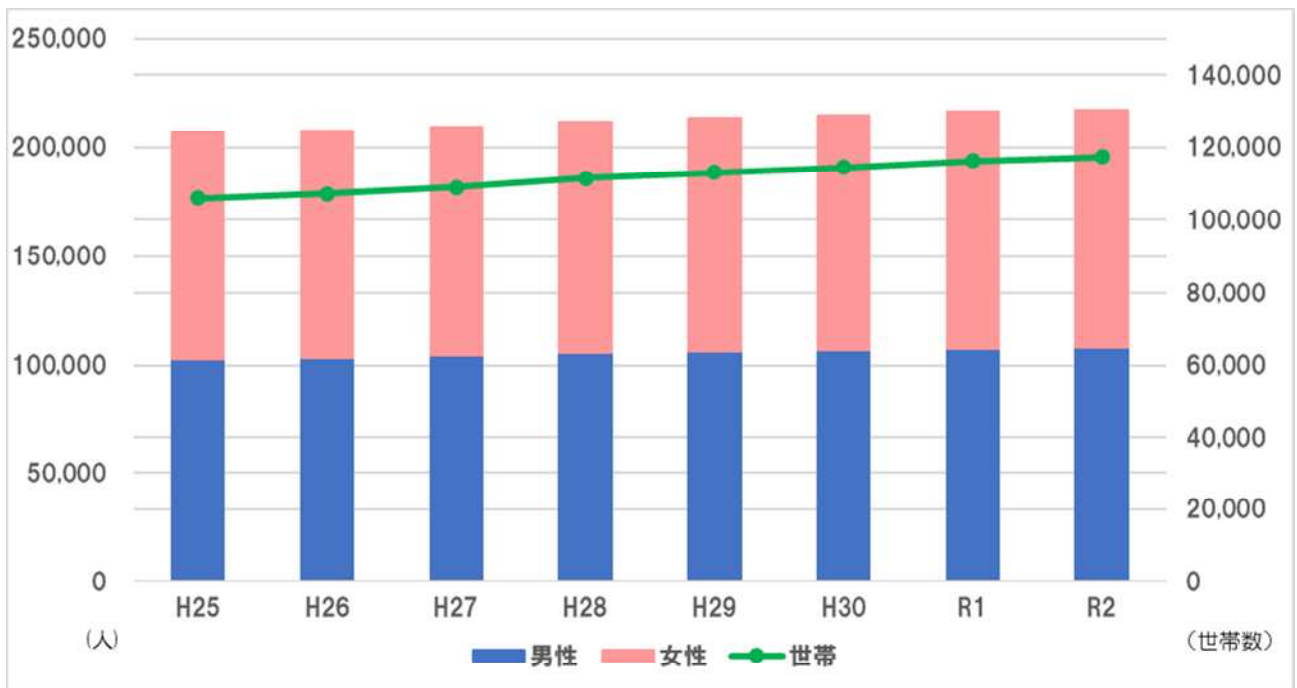
2 人口・世帯

(1) 総人口・総世帯数

荒川区の総人口は令和 2 年 4 月 1 日現在、217,167 人（荒川区住民基本台帳より）であり、7 年前の平成 25 年に比べ 10,418 人増加しています。

荒川区人口ビジョン（平成 27 年度策定）によると、今後何も対策を講じなければ、将来推計人口は、2025～2030 年頃をピークとして、2060 年には 18 万人弱にまで減少する可能性があります。

一方、世帯数も人口同様に増加しており、令和 2 年 4 月 1 日現在、117,333 世帯となっています。1 世帯当たりの人員では、平成 25 年で 1.95 人/世帯が、令和 2 年では 1.85 人/世帯であり、7 年間で約 5% 減少しています。（図 2-2）



出典：住民基本台帳（各年4月1日現在）

図 2-2 人口・世帯数の推移

（２）地域別人口・世帯数

次に地域別（図 2-3、図 2-4）の人口及び世帯数の推移を見ると、過去7年間で区内すべての地域において増加しています。東日暮里地域の人口は、平成 25 年で 26,300 人が、令和 2 年では 29,974 人であり、10 年間で約 3,700 人増加しています。世帯数も同様に、平成 25 年で 14,759 世帯が、令和 2 年では 17,824 世帯であり、約 3,000 世帯増加しています。

荒川区の総人口がこの7年間で増加しているのは、すべての地域において、人口が増加していることに加え、東日暮里地域の人口が急速に増加していることなどが考えられます。



図 2-3 地域区分 (都市計画マスタープランから)



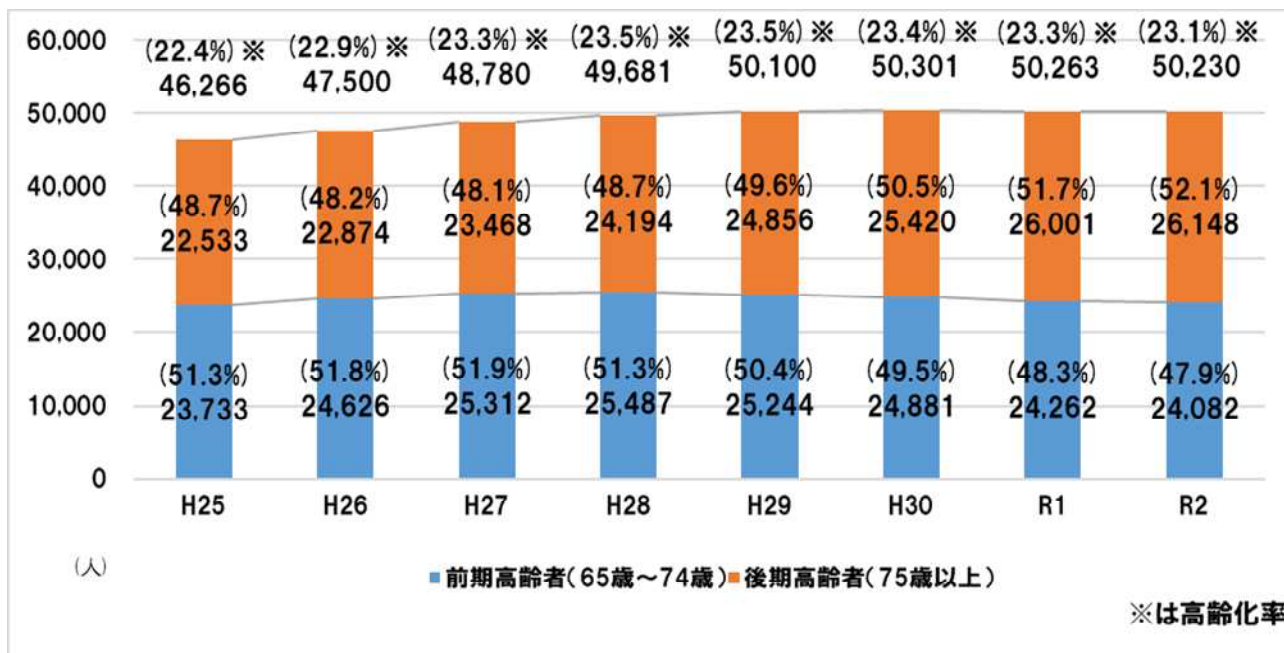
出典：住民基本台帳 (各年 4 月 1 日現在)

図 2-4 地域別人口・世帯数の推移

(3) 高齢者人口・世帯数

荒川区における65歳以上の高齢者人口の推移を見ると、平成25年で46,266人（高齢化率：22.4%）が令和2年では50,230人（高齢化率：23.1%）であり、7年間で約4,000人増加しています。

また、高齢者の内訳を見ると、平成25年の前期高齢者（65歳～74歳）は23,733人（51.3%）、後期高齢者（75歳以上）は22,533人（48.7%）となっていました。令和2年の前期高齢者は24,082人（47.9%）、後期高齢者は26,148人（52.1%）であり、7年間で後期高齢者の割合が前期高齢者に比べて高くなったことが分かります。（図2-5）



出典：住民基本台帳（各年4月1日現在）

図2-5 高齢者人口の推移

荒川区の高齢者世帯数の推移を見ると、65歳以上の高齢単身者数の割合は、平成27年で5.9%（12,576人）であり、平成22年から0.6ポイント増加しています。これは全国と比べると1.2ポイント、東京都と比べると0.4ポイント高くなっています。

次に、荒川区の65歳以上の夫婦のみの世帯数の割合を見ると、平成27年は7.8%（7,996世帯）であり、平成22年から0.2ポイント増加しています。これは全国と比べると4.2ポイント、東京都と比べると0.9ポイント低くなっています。（表2-1）

		人口（人）	世帯数（世帯）	65歳以上の単身者		65歳以上の夫婦のみの世帯	
				人数（人）	割合（対人口）	世帯数（世帯）	割合（対世帯数）
全国	H22	128,057,352	51,842,307	4,790,768	3.7%	5,525,270	10.7%
	H27	127,094,745	53,331,797	5,927,686	4.7%	6,420,243	12.0%
	H27/H22	99%	103%	124%		116%	
東京都	H22	13,159,388	6,393,768	622,326	4.7%	516,475	8.1%
	H27	13,515,271	6,690,934	739,511	5.5%	582,081	8.7%
	H27/H22	103%	105%	119%		113%	
荒川区	H22	203,296	96,161	10,870	5.3%	7,327	7.6%
	H27	212,264	103,101	12,576	5.9%	7,996	7.8%
	H27/H22	104%	107%	116%		109%	

出典：各年国勢調査

表2-1 高齢者世帯の推移

(4) 町丁目別の高齢化率

町丁目別の高齢化率を見ると、西日暮里2丁目、南千住3丁目、南千住4丁目、東尾久7丁目を除いた全ての地区で15%を超えています。町屋2丁目、南千住2丁目では、高齢化率が30%を超えています。(図2-6)

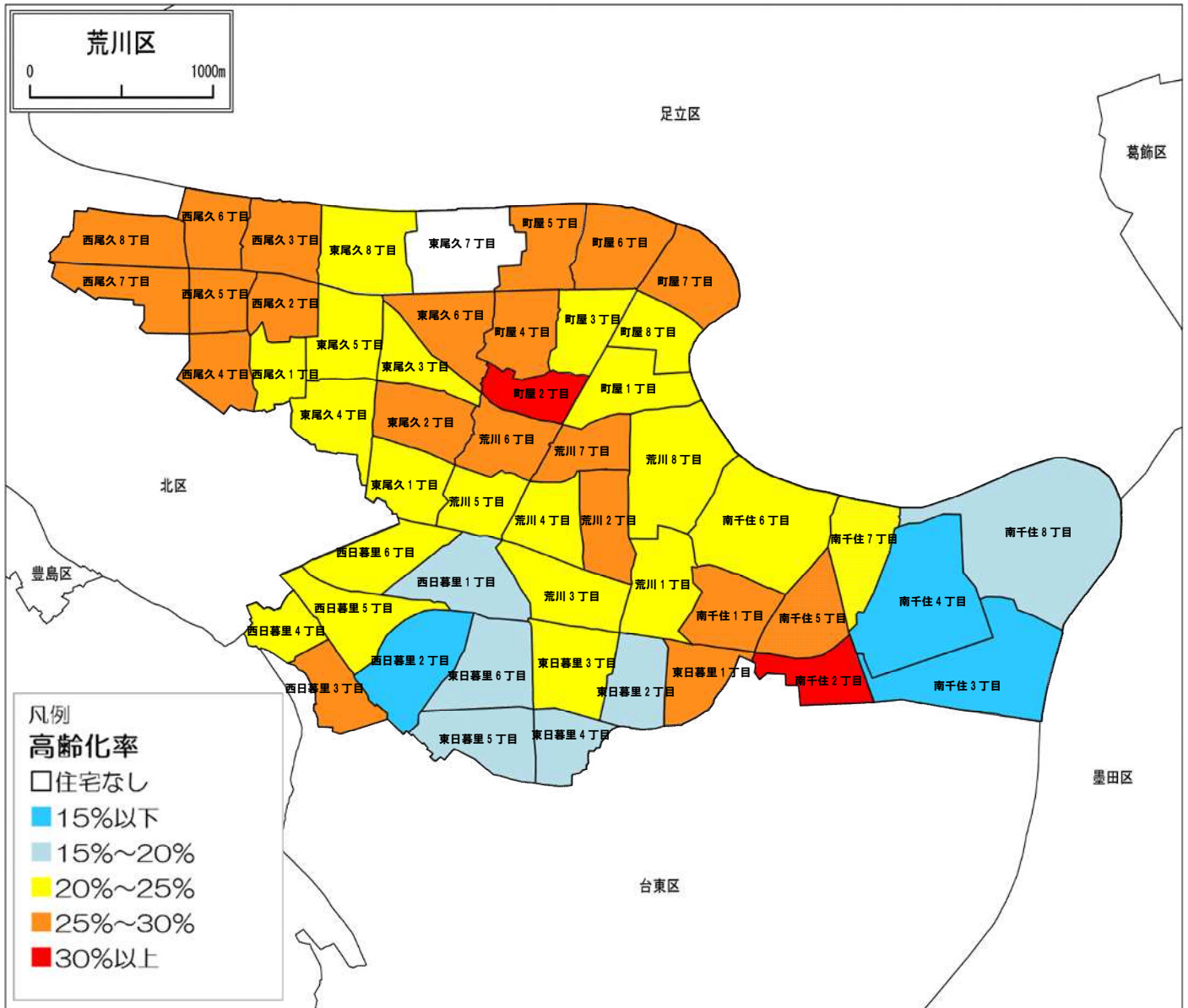


図2-6 区内町丁目別高齢化率

出典：住民基本台帳（令和2年4月1日現在）

(5) 障がい者人口

令和2年3月31日現在、荒川区の障がい者手帳所持者は、合計10,853人です。これは、平成21年に比べ、3,302人増え、荒川区全体の人口217,167人（令和2年4月1日現在）に対して約5%を占めています。表2-2は、障がい者手帳所持者数からみた障がい者人口を表しています。身体障害者手帳、愛の手帳（知的障がい者）、精神障害者保健福祉手帳所持者数をみると、身体障害者手帳の所持者が最も多く、全体の約64%を占めています。（表2-2）

障がい別		等級						合計
		1級	2級	3級	4級	5級	6級	
身体障がい	肢体不自由	640	706	695	817	306	153	3,317
	視覚障がい	172	187	40	52	66	32	549
	聴覚言語機能障がい	29	185	126	256	0	211	807
	内部障がい	1,549	59	234	466			2,308
知的障がい※		55	307	349	776			1,487
精神障がい		108	1,161	1,116				2,385
合計		2,553	2,605	2,560	2,367	372	396	10,853

※知的障がいの等級単位は「度」であり、1～4度までである。

出典：荒川区障害者福祉課（令和2年3月31日）

表2-2 障がい者手帳所持者数

3 公共交通

(1) 公共交通網

荒川区内の鉄道路線（都電を含む）は、6つの路線、28の駅が存在し、日暮里駅、西日暮里駅、町屋駅、南千住駅では3つの路線が通っています。

荒川区内のバス系統は、都営バスとコミュニティバスをあわせて20系統が存在し、日暮里駅では4系統、南千住駅では3系統、都営バスが通っています。また、都営バスは東京駅、池袋駅等、都内の主要な駅に連絡しています。（図2-7）



荒川区コミュニティバス

「さくら」ルート
 「汐入さくら」ルート
 「町屋さくら」ルート
 ※「さくら」ルート及び「町屋さくら」ルートの詳細については、マップ面(裏面)をご覧ください。

路線バス

路線バス	起点	終点	コミュニティバス	起点
上46	南千生駅東口 南千生車庫前	上野浜坂基前	草64	池袋駅東口
草41	足立梅田町	浅草寺町	端44	北千住駅前
草43	足立又役所 千住車庫前	浅草雷門	里22	日暮里駅前
草63	池袋駅東口	浅草町町 雷門一丁目	里48	日暮里駅前
			里48-2	日暮里駅前
			都08	

荒川区交通マップ Map of the Traffic Information



終点	起点	終点	起点	終点
浅草雷門前	東42甲 南千住車庫	東京駅八重洲口	都08 日暮里駅前	錦糸町駅前
駒込病院前	東42乙 南千住西口	東神田	北千01 北千住駅東口(電大口)	南千住駅東口
電戸駅前	東43 南千住車庫	秋葉原駅前	北千02 北千住駅東口(電大口)	
見沼代親水公園駅前	東43 荒川土手操作所前	東京駅丸の内北口		
江北六丁目自治地前	東43 江北駅前	駒込病院前		
加賀団地(循環)	錦40 南千住駅東口	錦糸町駅前		

都バス運行情報サービス (URL: <https://tobus.jp/blsys/navi>)

図 2-7 鉄道路線・バス系統図

(2) 公共交通機関利用状況

① 鉄道（都電を除く）

区内の各交通機関の1日当たりの平均乗降客数を見ると、都電の各停留場以外の駅では、1日当たり5,000人以上の利用があります。特に、西日暮里駅、日暮里駅では、各交通機関を合わせて1日当たり約40万人近くの利用者がいます。（表2-3）

交通機関/駅名	平均乗降人員(人/日)									
	(尾久)	西日暮里	日暮里	三河島	南千住	町屋	新三河島	赤土小学校前	熊野前	(三ノ輪)
JR線	20,720	199,392	228,840	22,922	34,402					
京成本線			103,670			20,915	6,031			
東京メトロ		168,478			31,245	62,882				43,601
つくばエクスプレス					11,836					
日暮里・舎人ライナー		30,858	54,253					5,216	9,677	
合計	20,720	398,728	386,763	22,922	77,483	83,797	6,031	5,216	9,677	43,601

※JR線、つくばエクスプレスの「乗降人員」は「乗車人員」を2倍して算出
出典：各鉄道事業者HP（令和元年度）

表2-3 鉄道駅の1日あたり平均乗降人員

② 都電荒川線

都電荒川線の乗車人員の推移（全線データ）を見ると、令和元年度は46,683人となっており、平成22年度に比べ、1日あたり乗車人員が2,834人減少しています。（表2-4）

1日あたり乗車人員の推移(全線)(人/日)				
H22	H23	H24	H25	H26
49,517	49,130	45,056	45,550	45,501
H27	H28	H29	H30	R1
45,658	45,677	47,774	47,504	46,683

出典：令和2年4月1日現在 東京都統計年鑑

表2-4 都電荒川線1日あたり乗車人員の推移（全線データ）

③ 路線バス（都営バス）

荒川区内を運行する都営バスは全部で14系統あります。主な行き先としては東京駅、池袋駅、北千住駅等、都内の主要な駅へ連絡しています。区内を走る都営バスの中では、草63系統、都08系統の1日あたりの乗車人員が10,000人を超えています。（表2-5）

1日あたりの乗車人員							
	上46	錦40	東42甲	東42乙	東43	端44	草41
区間	南千住駅東口、 南千住車庫前 →上野松坂屋前	南千住駅東口 →錦糸町駅前	南千住駅西口、 南千住車庫前 →東神田、東京 駅八重洲口	南千住車庫前 →浅草雷門	荒川土手操車所前、 江北駅前 →田端駅前、駒込病院 前、東京駅丸の内北口	北千住駅前 →駒込病院前	足立梅田町 →浅草寿町
H27	6,914	792	8,732		6,366	5,708	5,293
H28	5,944	615	7,344		7,284	5,601	4,812
H29	6,464	674	7,849		7,678	6,023	5,264
H30	6,687	700	8,212		7,596	6,141	5,395
R1	6,814	760	8,219		7,566	6,046	5,374
	草43	草63	草64	都08	里22	里48、48-2	合計
区間	足立区役所、 千住車庫前 →浅草雷門	池袋駅東口 →浅草寿町	池袋駅東口 →浅草雷門南	日暮里駅前 →錦糸町駅前	日暮里駅前 →亀戸駅前	日暮里駅前 →見沼代親水公 園駅前、加賀団地	全区間
H27	2,139	13,067	6,776	10,311	6,705	1,021	73,824
H28	1,835	11,505	6,091	10,195	7,179	1,011	69,416
H29	1,966	12,487	6,572	10,927	7,812	1,090	74,806
H30	2,003	12,264	6,834	10,786	7,738	1,110	75,466
R1	2,035	12,152	6,846	10,721	7,949	1,173	75,655

表 2-5 都営バス 1日あたり乗車人員の推移

出典：東京都交通局 HP

④ コミュニティバスさくら

平成 17 年度から運行を開始したコミュニティバスは、現在 6 系統あります。

過去 5 年の 1 日あたり平均利用者数は、多い順に「さくら」、「汐入さくら」、「町屋さくら」となっています。(表 2-6)

1日あたりの乗車人員							
年度/系統	さくら(01.02.02-1系統)		汐入さくら(03系統)		町屋さくら(04.05.05-1系統)		合計
H27	1,609	(119)	1,289	(60)	550	(53)	3,448
H28	1,636	(119)	1,250	(59)	559	(56)	3,445
H29	1,605	(122)	1,295	(66)	585	(61)	3,485
H30	1,619	(121)	1,376	(68)	615	(63)	3,610
R1	1,483	(107)	1,311	(63)	599	(59)	3,393

※ () 内は障がい者の利用者数

※町屋さくら 04 系統は令和 2 年 6 月末で廃止

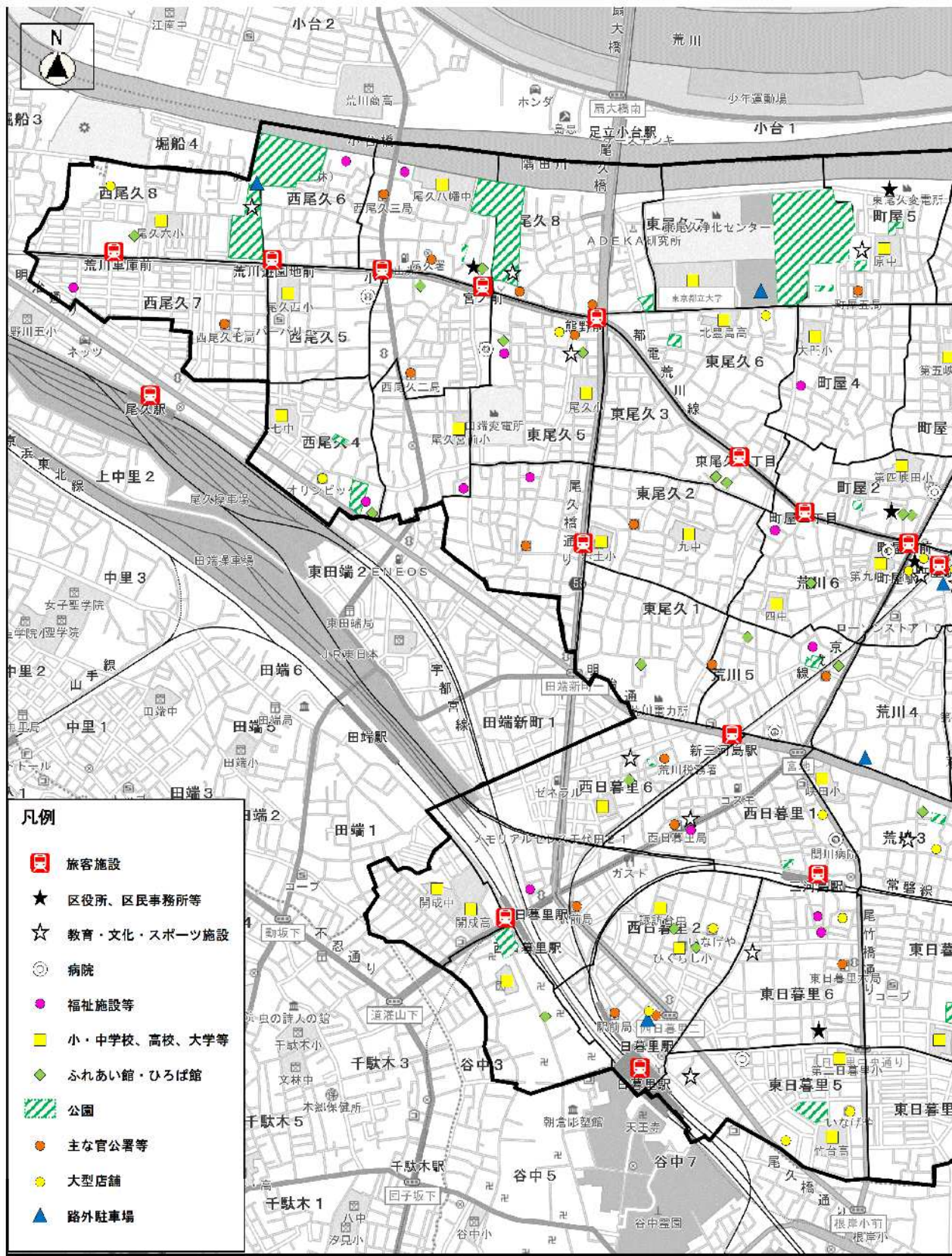
出典：荒川区都市計画課資料(令和 2 年 4 月 1 日現在)

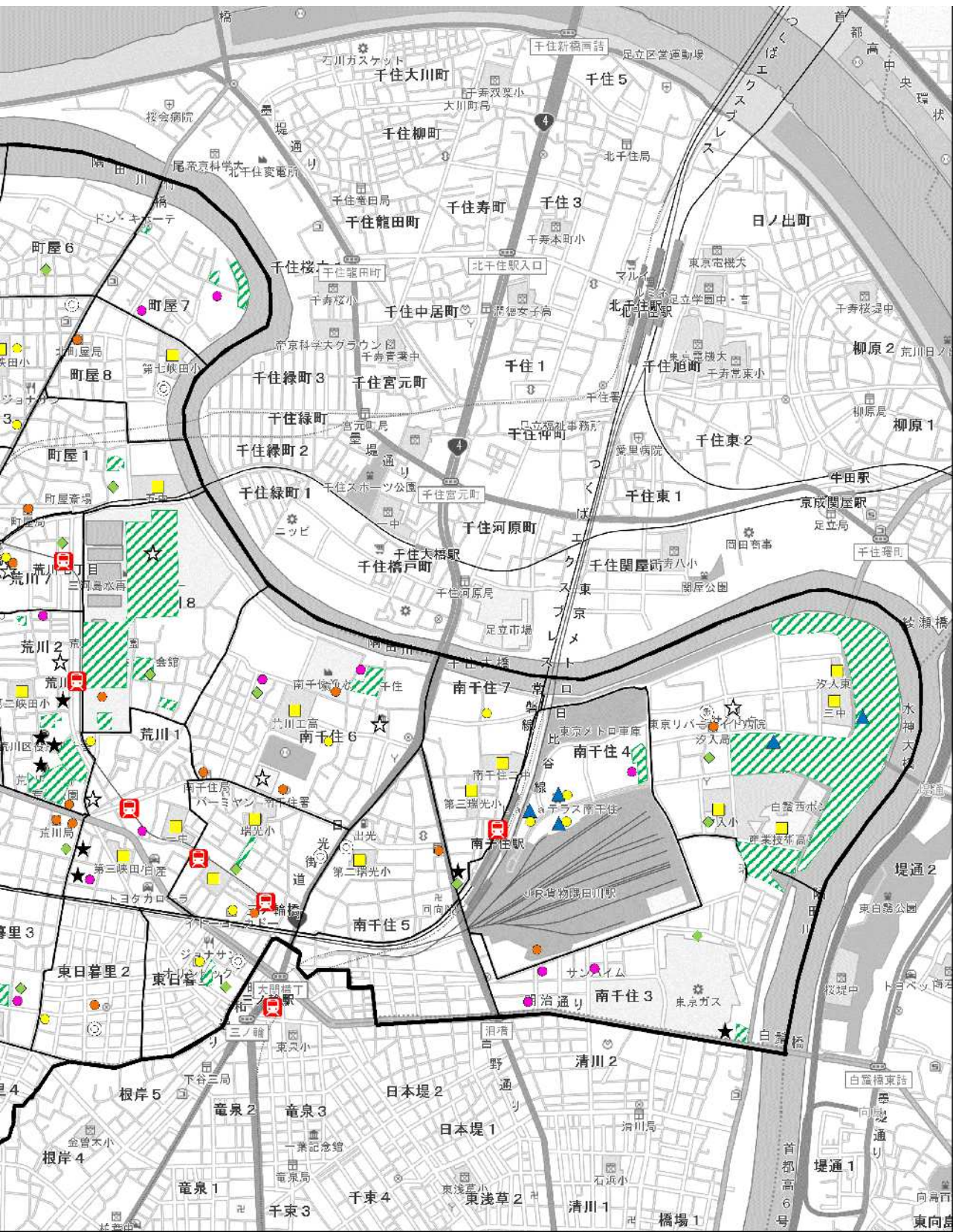
表 2-6 コミュニティバス 1 日あたり平均利用者数の推移

4 主要施設

(1) 施設分布状況

荒川区内には主要施設として、区役所・区民事務所、教育・文化・スポーツ施設、病院、福祉施設、学校、公園、大型店舗、駐車場等の 249 施設が分布しています。(令和 2 年度末時点、旅客施設を除く。)また、各施設の分布状況を見ると、区役所・区民事務所等や主な官公署等の施設は区の中心部に多く、一定規模以上の福祉施設、病院、都立・区立公園、大型店舗等は区内全域に広く分布しています。(図 2-8)





(C) PASCO (C) INCREMENT P

図 2-8 主要施設分布状況